

標 題	先輩に続け！ 農林大学校就農ガイダンス開催！ ～ 農林大学校OBに学ぶ ～
-----	--

(ダイジェスト)

6月14日に農林大学校就農ガイダンスが開催され、出雲市農業再生協議会・斐川町地域農業再生協議会は合同で、学生に対し、出雲での就農について説明を行いました。

今年から新たな取組として、農林大学校OB（新規就農者）の衣笠久志氏から、仕事として農業を選ぶことの楽しさ、難しさなど、笑いも交えながら「就農のリアル」を伝えられ、地元へ進路を考える生徒15名は興味深く聞きっていました。

出雲市管内では近年は毎年、農林大学校の卒業生が就農をしています。
例年、市の担当者から出雲市農業の概要と就農状況について説明していますが、今回は、それに加えて新たな企画として、出雲市での自営就農・雇用就農の状況を直接伝えるために、その関係者2名と共に参加しました。

【新企画】

- ・JAいずもアグリ開発株式会社の取り組み（雇用就農）
- ・農大OBである衣笠久志氏の自営就農談（就農3年目：きゅうり、トマト等 有機野菜）

○JAいずもアグリ開発株式会社の取り組み（JAしまね JA主導型法人推進室 岡野氏より）

- ・JAが自ら農業経営に積極的に関与しながら、新たな担い手の創出、遊休農地、耕作放棄地の活用、儲かる農業経営を実践し地域農業を守ることを背景として、平成20年12月に設立
- ・取締役兼社員は、指導者として同社の「担い手」育成にあたり、社員は、将来の「取締役（担い手）」又は「自営就農」を目指している。平成21年度から農大卒業生も雇用している
- ・特徴として「自営就農」を目指す人には、リースハウス（ぶどう）等の暖簾分けも実施

○衣笠久志氏は自らの就農体験談として

「出雲では有機野菜の栽培者はほぼいない、今だったら段階を踏んでエコからはじめているなあ」
「有機では就農1年目はかなり経費がかかり、販売収入は非常に少なかった、でも頑張った方！」
「農業をやるからには、目的や理由、大事なものがないと楽しくないよ！！」



など、学生たちに熱く伝えられました。

<衣笠氏の話に耳を傾ける学生>

農業普及部としましては、農林大学校学生に、関係機関と密に連携を図り、地域の実情を理解してもらい、スムーズな就農ができるように支援を行っていくことにしています。